

簡易版 TP (ティーチング・ポートフォリオ)

氏名	井本 美穂
所属機関名	教育学部初等教育学科
職位	准教授
在籍年	8年

教育の責任

教育学部の初等教育学科に所属し、音楽教育関連科目（「初等音楽科内容論」「初等音楽科教育法」「ピアノ奏法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「教材分析開発演習C」）を担当している。加えて、小学校教員免許取得のための教職科目（「教職実践演習」「教育実習事前・事後指導」）探究科目（「探究ゼミ」）および卒業論文指導を担当している。

私の教育の責任は、学生が小学校教員としての資質・能力を獲得できるよう支援することである。特に、小学校で音楽授業を実践するための音楽指導力をつけることに注力している。

教育の理念

私の教育理念は、「感性を創造に生かす力を育成すること」である。私が専門とする音楽科では、人間ならではの知覚・感覚である感性に直接アプローチすることが可能であると考えられる。具体的には、音楽の授業をとおして1) 物事の印象や性質などを感覚的に把握する力、2) 他者が感じていることに共感する力、3) 他者の感性とあわせてよりよいものを創造する力、を引き出し、伸ばすことをめざしている。

1) 感性とは、物事の印象や性質などを感覚的・直感的に把握する能力や心の動きのことであると捉えている。新しい物事を創り出すための発想は、しばしば感覚や直感から生まれる。音楽をとおして感性を養うことは、既存の枠にとらわれない新しいアイデアを創出する力につながると思う。

2) 音楽は、言語を介さずとも人と人との間をつなぐことができる。音楽授業で感性を働かせて他者が感じていることに共感する力を養うことは、社会のなかで他者と共生していくための礎になると考えている。

3) 自らの感性、および他者の感性に共感する力を基盤として、他者と協同してよりよいと思うものを創ることができるようにする。「よりよいもの」とは、自分および共につくる他者の感性を軸にした尺度であり、その「よりよいもの」の解釈自体にも個性があらわれることを、学生が体験をとおして認識できることをめざしている。

このように、私の音楽の専門性を生かし、知覚や感情に直接作用する音楽をとおして、感性を創造に生かす力を育成したい。そして学生には、この力を生かして、卒業後の人生をしなやかに生きてほしい。また、教職につく学生には、教員としてこの力を次世代の子どもに伝えてほしい。

教育の方法・方針

1) 感性を磨く

音楽に関する経験知を増やすため、様々なジャンルの音楽を聴くことに加えて、身の回りの音に耳をすませ、それらの音を自分の声や身体で表現するなど、多様な音楽経験を提供するよ

うにしている。さらに、聴いて感じたこと・考えたことをアウトプットすることにより、自分の感性を確認できるようにしている。

2) 他者が感じていることに共感する機会をつくる

プレゼンテーション（演奏含む）の機会を多く設け、他者の感じ方・演奏方法を知ることができるようにしている。また、ペア、グループ活動を多く取り入れ、グループで考えたことを全体で共有・発表（演奏など）する時間を設けることで、個人で考える（演奏する）だけではわからない、他者の思考やアイデアを共有し共感することが可能となるようにしている。

3) 他者の感性とあわせてよりよいものを創造する

あるテーマをもとに音楽をつくったり、「創作発表会」などの音楽イベントを企画・実施したりするなど、学生が自分たちで協同して何かを創り出す活動を授業に組み込んでいる。これにより、自分と他者の感性を合わせて、メンバーにとってよりよいと思うものを創る力をつけることができるようにしている。

教育の成果

課題・振り返り等での学生のコメントから、各項目の成果を示す。

1) 「周りの音を聴こうとしてこなかったため、考えているよりも聴こえる音が多く感じた」「日常のちょっとした音に耳を傾けることの大切さを学んだ」など、音に関する感覚が広がっている様子がうかがえる。また「人それぞれ考え方や感じ方が違うので、どのように音を出しても、メロディーやリズムをつくっても、どれも正解。それが音楽の良いところであり、楽しいところでもある」と、音楽をとおして個々の感性の存在に気づくことができている。

2) 創作発表会について「やってよかった。最も嬉しかったことは、みんなも同じように感じていたということである」との感想から、他者との共感を実感できていることがわかる。また連弾で「息を合わせることの難しさを学んだ」とのコメントから、言語を介さず他者と共感し表現することの難しさにも気づくことができている。

3) 「今までは、自分に対して一方通行（聴くだけ）だった音楽というものを、授業をとおして多人数ですること、考えもしなかったつながりや発見があり、とても意味のある時間が過ごせた」「合唱や合奏をとおして、役割が同じ人と聴きあったり、教えあったりすることで、より自身の能力を引き出すことができた」と、他者と共に音楽をつくる過程で、自分自身が成長していることを実感できている学生がみられた。さらに「(音楽は) 一人一人の協調性や表現力なども高めることができ、自分の考えを相手に伝えることができるなど、社会に出て行くための大切な力を身に付けることができる。音楽とは「生きていく力」の基盤になるもの」と、音楽教育の根本的な意義にまで理解を深めている学生も確認することができた。

今後の目標

【短期目標】

・社会に開かれた教育を実践できる教員を育てたい。その糸口として、学生が音楽授業で学んだことを生かして学外で演奏やワークショップ等を企画・実施できるよう支援することなどが挙げられる。

【長期目標】

・国内外の教育実践者・研究者と連携し、感性を創造に生かす力を育成するための教師教育に関する研究を進める。その研究をもとに授業改善を重ね、学生および社会に還元する。

根拠資料

担当科目のシラバス、授業アンケート、授業課題の学生の記述内容、授業振り返りシート